

ほっかい新報

2012年 週刊 月3回発行
(第1・2・3日曜日)

9月2日(第1883号)

発行所 ほっかい新報社

060-0806 札幌市北区北6条西7丁目
電話 011(726)4858
北洋銀行(普)0576770
Eメール:hokkaisinpo@gmail.com

定 価 月 300円 1部80円(〒120円)
年 2,760円(〒1,440円)

サンルダムの検証はなされていない

堤防高50m、貯水量7300万m³、総事業費530億円

年内にも再開?



開発局HPより
完成予想図

サンルダムのような税金の使い方の検討は、議会と同様に異なる意見の持ち主が意見を闘わせ、それを住民が知った中で結論を出していく性格のものです。しかし、検討委員はすべてサンルダム建設推進の天塩川流域自治体首長だけでした。そのため、サンルダムの検証は行われず、開発局に「早く造れ」という意見しか出されませんでした。

1 治水の検証

サンルダムが予定されているサンル川は、下川



佐々木 克之 (北海道自然保護協会副会長)

北海道開発局は、国の事業見直しで凍結中のサンルダム(下川町)の再検証作業を7月31日名寄市で流域自治体の首長による「検討の場」を持ち、8月10日に住民向け説明会を開き、同23日には名寄市で、学識経験者と流域住民の「意見を聴く場」を開きました。その結果、開発局と道、流域11市町村の「検討の場」でまとめられた「サンルダム建設事業の検証に係る検討報告書(素案)」を支持する意見が多数、しかし旭川大出羽教授らが抜本的再検討を求めました。今後、対応方針の原案の作成し、北海道開発局事業審議委員会委員会の意見を聴き、対応方針を策定する予定です。サンルダムの検証のあり方について、北海道自然保護協会副会長の佐々木克之氏に聞きました。

町の下流で名寄川に合流 町長はダムが絶対必要と主張しています。なぜ必

2 水道水の検証

も多くの水道水が必要と言いますが、いまでも水源の70%しか使用していません。今後人口が減少するのには明らかなので、水道水が不足するのは考えられません。名寄市は自衛隊の水を供給するため必要としていますが、人口減を考慮すると必要としてい

し、豊富で良質な地下水をすこし使うだけで水道水は足りません。

3 サクラマス保全

サクラマスは北海道の貴重な漁業資源であり、子どもやヤマメは溪流の女王と呼ばれています。サンル川は全国でも有数のサクラマス遡上の川ですが、ダムを造るとサクラマスやヤマメは大幅に減少することは目に見えています。開発局は魚道を造って影響を最小限にするとしていますが、最小限とは?具体的なことは述べずに強行しようとしています。

4 費用対効果

ダムによる恩恵/ダム建設費が1・0を越えなくてはならないことになっています。戦後最大の洪水被害額(1975年)を現代価値になおすと約120億円、一方開発局は、3000億~1兆円という信じられない予測をたてて、それに基づいてダムによる恩恵を求めています。こんなことをしても、費用対効果は?6でした。

5 民主的意思決定を

私たちは開発局との意見交換を要望してきまし

北海道の声をとどける政府交渉

日本共産党北海道委員会と地方議員団が8月27日~28日の2日間、2013年度予算編成および行政執行に関する要望書

智子参議院議員、大門実紀史参議院議員、はたやま和也党政策委員長、真下紀子道議、次期衆議院議員選挙小選挙区予定候補の野呂田博之(1区)、森つねと(3区)、菊地よう子(4区)、鈴木龍次(5区)、おぎう和敏

27日交渉の様子
「はたろく」より
おとどけします
今日・明日と東京です。小選挙区候補・真下紀子道議・小形香織札幌市議と、北海道の声を伝える政府交渉です!

政府も来年度予算編成への作業が始まりますが、当面の執行課題と合わせ、道民の実態や願いを反映させるために例年おこなっている交渉なのです。今日は経産省・文科省・農水省・厚労省との交渉で、重点項目の1つであるTPPストップについては佐々木隆博・農水副大臣への要請となりました(写真)。



交渉する、紙、はたやま、真下、小選挙区予定候補と小形の各氏

佐々木副大臣は道内選出議員でもあり「気持ちはみなさんと変わらない」との回答でしたが、来月に相次ぐ国際会議で参加表明するのではないかと懸念の声が出ています。第一次産業だけでなく、医療・経済など「国のかたち」まで変える問題に道民合意はできていない、ということに参加者一同で訴えました。各省には、私からは原発撤退(経産省)、幌延・深地層研究センターの決算不明瞭問題(文科省)、丸太の過剰在庫問題(農水省)、ルネサス北日本工場の雇用確保(厚労省)で要請しました。どれも道内を回った時に実態を聞いたものです。文科省では回答をめぐって厳しい議論も、厚労省では具体的な実態の情報提供もして取り組みの強化を訴えました。こういう議論の積み重ねが、要求によっては時間もかかりますが、実現の道を開いていくものだと何ども経験してきました。明日もがんばります!

たが、03年に流域委員会ができてから、開発局は一切拒否してききました。意見交換こそ欠かせません。本来、税金を用いて作るダム計画については国民の意見を聞く義務があるのですが、開発局は文書でしか回答せず、私たちの疑問には応えてきませんでした。不要なダムへの税金の投入、日本でも有数の川環境の破壊などの多くの課題を粘り強く道民とともに明らかにして、北海道遺産となっている天塩川の価値を後世に伝えていきたい。

焦点

益休みを利用し て家族で、日帰り旅行に出かけた。オロロンラインのきれいな海沿いを走りながら、風力発電で有名な古前町まで。苦前町は、再生可能エネルギー自給率が道内でトップの自治体。20基ほどの大型の風車が回っている様子は圧巻。帰りに寄った北竜町の「ひまわりの里」も最盛期は過ぎていたようだが、広大な敷地一杯にひまわりが咲き誇り見事。日が傾きかけても続々と観光客が、光景に感嘆の声を漏らしていた。それぞれの土地で工夫を凝らした取り組みからは、その地域を豊かにしたいという心が伝わってきた。しかし、駅前商店街ではシャッターが降りたままという商店も少なくない。民・自・公が密室談合で成立させた消費税増税法案がこのまま、実行されれば、ますます閉店する商店が出てくるだろう。「街のために」と書いたある政党のポスターがあらこちらに掲示されていた、増税を決めながら地域のためとは、おかしな話。大企業ではなく、地域の中小企業の応援を。原発中心ではなく、原発ゼロと自然エネルギー中心の政策への転換を一本道に実現するための選挙にしたいと思っただけでした。

赤旗へ日曜版
定価800円(税込) 一部1000円
日本共産党中央委員会発行



手中に一通の手紙があります。8月24日未明60歳で旅立った坂庭恵子さんから生前にいただいたものです。闘病生活が始ま

り、最初の入院の際に病院へ伺ったことへのお礼の手紙ですが、そこには恵子さんのお姉さんから届けられたという一文が同封されていました。治療がつかないと泣いて訴えた恵子さんへ届けられたその言葉「お前はお前であらうと良い、顔も体も名前も姓もおまえにそれはちょうど良い。幸も不

幸も喜びも悲しみさえもちょうど良い」読みながら、恵子さんはこの後もつらい苦しい治療が続く中静かにすべてをうけい

故 坂庭 恵子さん

（留寿都村 村議5期）

最近知らされました。「ユーモアのセンスあふれる、聡明な、明るく気さくな人」とにかく面

目、夫が亡くなった後、村に任じていた。大戸村長は、あながきで「リュックサックを背に驟雨の田舎道をツツ濡れて通る齋藤君を度々見たという話を聞いていたが、今回

は、当時「日勝産業新報社」の齋藤勇助氏で、広尾町に住んでいた。大戸村長は、あながきで「リュックサックを背に驟雨の田舎道をツツ濡れて通る齋藤君を度々見たという話を聞いていたが、今回

こうして励まされた兵士は、数年で無事帰還された方もあるが、第2次大戦後まで帰ることなく10年以上戦地を転々としていた方、外地で行方不明になった方、負傷した方、亡くなった方、夫々に、聖戦と信じて戦った結果、多くの犠牲を払い、

た生活、財産、文化遺産を元の状態に戻すためにどれだけの時間と費用が必要なのか。 本来は、住民の健康や福祉、教育や文化のために使われるべきものが、自然や住民を破壊するために使われ、破壊された身心はとり戻せず、子どもを含めた怒りの連鎖は止むことがない。

「歌群セミナー」 18日(火)14時〜札幌エルプラザ(北8西3) 4階 「短歌のリアリズムと表現について」 山本司・短歌評論家・歌群代表◎1000円/申込12日まで◎111-555-1600

凶は英国であって 自己の投資せる権益の失墜に心残りがあった。唯単に利欲のために違ひなく、「社会人類の平和など眼中に無いのである」と断定している。「妖雲一掃に勤むる我が聖戦こそ真に神の使命なり」と信じます」として、後援会の7つの実行項目が書かれているが、家族・遺族の生活状況を調べ、労力援助、慰問するなどしっかり支

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

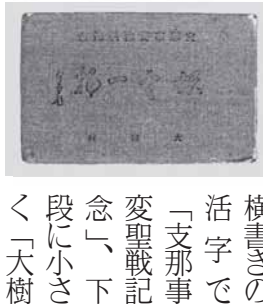
「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元



「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

帰還した写真帳

西浦 妙子

旧大樹村(昭和十三年発行)

村長は、達筆で、漢文を良くし、俳人でもあるらしく、自らのものを含めて、家族写真の二段に署名入りで横書きの励ましの俳句が、左の句のよう

村長はじめ、銃後を守る村民は、当時「妖雲一掃」により、「日本と支那の平和と繁栄」を真摯に願っていたかもしれない。しかし、歴史は日本そのものが「妖雲」だったことを明らかにした。

「今何をすべきか」を考え、行動し始めている。この写真帳が、歴史を振り返り、地域や家族をもう一度見つめ直し、今後の政治の選択に大きな示唆を与える物であってほしいと願っている。

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

「妖雲は英国」と 掌にすっぽり入るくらいのもので、黄土色の布表紙(写真)に右から横書きの活字で「支那事変聖戦記念」下段に小さく「大樹村」とあり、真ん中に大きく村長の筆字で「妖雲一掃」と書かれている。「大樹村統後援会会長」である村長は、この戦争は「支那人の一部と戦って居る」けれども、裏で「蒙昧なる支那人を使いまわしている」のはソビエトやフランス、イギリスなどだが、「此の元

故郷の近況を報告

西浦 妙子

故郷の近況を報告

故郷の近況を報告

故郷の近況を報告

故郷の近況を報告

故郷の近況を報告

故郷の近況を報告

撮影した記者は

見草 教員

撮影した記者は

撮影した記者は

撮影した記者は

撮影した記者は

撮影した記者は

撮影した記者は

「妖雲は英国」と

西浦 妙子

「妖雲は英国」と

「妖雲は英国」と

「妖雲は英国」と

「妖雲は英国」と

「妖雲は英国」と

「妖雲は英国」と

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

真下紀子事務所から

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

道議会の論戦が明かす「原子カムラ・北海道版」

お知らせ

道ALA学習会

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ

お知らせ